
駅前広場のギタリスト

青式部

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

駅前広場のギタリスト

【Nコード】

N2557Q

【作者名】

青式部

【あらすじ】

僕は夜になると弾き語りを聞きに行く。

駅前小さな広場がある。広場は夜になると人通りが少なくなる。毎日そこに斉藤は歌を歌いにくる。アコースティックギターはヴィンテージのようで渋い色をしている。1月の風は乾いているらしく、音はあたりに良く響く。

そこから100メートル南へ歩き、左、つまり東を向くと細い路地がある。緑木通りだ。そこを突きあたりまで歩くと古本屋がある。そしてその手前に僕のアパートがある。

アパートには登山部と書かれた看板がかかっている。つまり僕は学生だ。2年前からここで暮らしている。夜になって皆が眠ると僕は部屋を出る。階段までは10メートルほど廊下が続いていて、3部屋ほど通り過ぎる。築20年以上で床がギシギシときしむ。

駅に向かっていくと空に冬の星座が輝いている。1月に目立つ星座はオリオン座だ。だが今日は曇っていてそれも隠れてしまっている。星を見るのをあきらめると、ボクは溜息をつく。

交差点を渡って駅前の広場に着くと、斉藤はいつものようにモッズコートを着て歌っていた。その曲は前にも聞いたことがある。斉藤は歌を11曲持っているらしい。どれもJPOPに分類される弾き語りだ。

「こんにちは。いつも一人ですね。」

「ああ。面倒が少ないからな。」

「なるほど。いつもここで歌ってますね。僕、聞きに来るの8回

目なんです。」

「ありがとう。聞いてくれる人がいると素直に嬉しいよ。」

「じつは僕もギターやってるんです。素敵な声ですね。」

「へえ。それは奇遇だ。それにしても、もしかして君、南北高校の生徒？」

「え、なんで分かったんですか。」

「その手持ち鞆、俺の時とまったく変わっていない。」

「へえ、斉藤さんって南北高校の方だったんですね。僕は登山部なんですけど、大学からは音サーでも入ろうかななんて思ってたんですよ。」

「へえ。だったら教えてやろう。時間があれば駅前の音楽教室に来れば良い。」

そう言つと斉藤は僕に一枚のパンフレットを手渡した。A4サイズでギター講師と生徒の写真が載っている。料金は月1万円ちょっとで、週4回とある。

「ああ、そうそう。言い忘れるところだった。後輩ってことだから料金は半額で構わない。そのかわり機材運びを手伝ってくれ。」

僕が戸惑っていると斉藤は決心がついてからで良いと携帯アドレスを教えてくれた。

- - -
それからあつという間に3年の月日が流れた。 - - -

「スタンバイ大丈夫ですか？」

「オース。みんな緊張してるね。」

「分る分る。俺たちも失敗ばっかしてたからな。」

「失敗は成功の元。」

「それそれ。じゃあ、行きますか。」
「そうだね。」

こうして僕は斉藤からギターを教わり、大学の音楽サークルで活躍した。弾き語りが聞こえてくると、今でも僕はふと足を止める。

（後書き）

お読み頂きありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2557q/>

駅前広場のギタリスト

2011年1月25日23時01分発行